

1852

「さいてません」

ひどいあつさの三日目が来たはずだ

五日二日月の夜十時 目がさめてしるうた

不意に火 すいて目がすめたううた

「さす お茶をのむ

そうだ 夕食をべていふ

朝十時、 次に夕刻四時半の食事

それも やさしいが 病のうやこい ~~と~~ソーマレだ

どういううやこい ソーマレと入つていふ

「まのこい 小さい病おらマレ」が欠えなくあるほど

入つてりマレ 病のこい 病い

「ソーマレ」を希望したゆえを病い

「茶ゼン」のおかゆの病いおまわりだ

「ソーマレ」おまわりと

病いマレマレの病い

これでは ひどいあつさと 子午てしるう

食事おまわり みるさけ向う

これでは 体力限界にきりそり

「おまわり」すいていふ

「あつさ」をいふと、いふにら きていふ病い

のびと言で かきつてしそつた

知りあひに スリテカ人と結婚しんが

いんニ食をそろび 手ぬるそが 困ったと

言つていん

のを思い出しん

ニ食は毎日ん 毎日やあひ たやりそろ

このあつさが 手ぬれば 示はしも

あつさの仲ろ 夕食あまけ

不食がすいこいり といりより

氣力がなくあろ

きいてあせいし とかあつた人

今日はあついで ビールを かのりする

と言つていん

今ころ 食やりのビールで 栄養不足 だ

あつさへ 食やあま いん のはず

私 何かわるいこと したのか

2023
7/17